恋と自然法則

「土曜寸言」040228

M君は、今ではある国立大学の有力教授である。もう30年も前になるが、卒業式を数日後に控えたある日の午後、私の研究室にやってきた。

開口一番、「今日は先生に、うまくいっていない僕の恋の悩みを聞いて頂きたくて来ました」と言った。万事、単刀直入を好むM君らしい言い方だと思いながら、「どういう状態なのか話してご覧」というと、彼はおおよそ次のように話してくれた。

同じクラブで2年後輩の女子学生のKさんというのが、彼が恋した相手だというのが、その彼女にM君は自分の気持ちを伝えてあるが、一向に返事がもらえない。そこでこういう場合、どうすればいいか、というのである。

「そんなことなら簡単で、会って尋ねるなり、電話をするなり、手紙を書くなりしたらどう？」というと、「求愛の手紙を毎日出し、返事をくれるよう促しているが、一向に返答が無いのだ」という。

「それはいけない。頻々とラブレターを送ったりなんかすると、彼女の方はつけ上がって、ますます君を無視するようになるから、少し休みなさい。すると急に手紙が来なくなった彼女は，不安になって何か反応してくるでしょう。成績の良い君のことだから、フェラデーの電磁誘導の法則は知っていますね？」。「つまり、作用に対して反作用は、作用を打ち消すように働くというあれですね」とM君。フェラデーの法則の薄い読者のために、これは発電の原理だ。おおこれを丸めてその両端を接続して電線を作り、これに磁石を近づけると、コイルに電流が流れる。この状態から、反対に磁石を遠ざけると、コイルに流れる電流は近づくときコイルに磁場の増加を打ち消す向きに磁場の増減を妨げるこの磁石の磁場を減少させる。

君は意気揚々帰って行ったM君成就など朝飯前と確信していた。

ファラデーの教えに従えば恋の磁場は反対向きの電流が流れることになる。

つまり、自然界はまこと天邪鬼で、「こうすればあいつ、ああすればこういう」というわけである。このファラデーの法則のために、攻勢を続けるM君のラブレターに気持ちを打ち消す。だから、彼のKさんはあわてて気持ちを高ぶらせてくる。

M君は卒業し、この件は私に違いないのだ。

学会参加の帰路だ、半年後、N市の大学院に進学して、今はM君が尋ねて来た。「あの話、どうなった？」と尋ねる私に、M君、「先生の言うとおりにしたら、それっきりになってしまいました」。